

科目名	文化人類学特論 I			担当教員：李 鎮榮	
科目名(英語)	Cultural Anthropology I			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	5	213	火・金 15:00-17:00

1. 授業の概要

この講義は文化人類学的思考の特色や枠組みを紹介する。大きく人間の営みを人・自然・超自然に分け、各分野における文化人類学の考え方を紹介する。「文化」とは人を取り巻く最も重要な環境であり、人類学的思考の生産性について講義していく。講義に際して講義形式は最小限に留め、受講生による発表と活発な議論を取り入れる。

2. 到達目標

人間の営みの様々な側面を深く体系的に理解することにより、個人のインスピレーションによるのではなく、科学的な思考が自然とできるようになってもらいたい。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 自己紹介と方針、予備知識のチェック、発表の分担者を定める。
- 第 2 週 文化人類学と人間の多様性
- 第 3 週 文化人類学の理論(社会進化論・伝播論)
- 第 4 週 文化人類学の理論 (機能主義・構造機能主義)
- 第 5 週 適応と文化 (狩猟採集・遊牧)
- 第 6 週 適応と文化 (農耕と焼畑)
- 第 7 週 人間の行為と文化の脈略
- 第 8 週 Sex & Gender
- 第 9 週 言語
- 第 10 週 言語と記号
- 第 11 週 言語人類学の広がり
- 第 12 週 文化を学ぶことと Culture Code
- 第 13 週 Gender-Role, Socialization
- 第 14 週 社会化とその後の生活
- 第 15 週 総括

4. テキスト

Nanda, Cultural Anthropology, wadsworth (非専攻者のための概論書)。研究室所蔵
 Roger.Keesing, Introduction of Cultural Anthropology (専攻者のための概論書)。図書館所蔵
 その他、言語人類学と構造人類学関係の図書については最初の時間に目録を提供する。

参考文献

一般的な研究書 (課題により適宜紹介する)

5. 準備学習

事前に課題を適宜紹介する。

6. 成績評価の方法

発表内容と授業への貢献度	50点
レポート (発表など)	50点
合計	100点

7. 履修の条件:

特になし。

8. その他

科目名	文化人類学特論II			担当教員：李 鎮榮	
科目名(英語)	Cultural Anthropology II			メールアドレス：j.lee@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後	5	213	火・金 15:00-17:00

1. 授業の概要

この講義は文化人類学的思考の特色や枠組みを紹介する。大きく人間の営みを人・自然・超自然に分け、各分野における文化人類学の考え方を紹介する。「文化」とは人を取り巻く最も重要な環境であり、人類学的思考の生産性について講義していく。講義に際して講義形式は最小限に留め、受講生による発表と活発な議論を取り入れる。

2. 到達目標

人間の営みの様々な側面を深く体系的に理解することにより、個人のインスピレーションによるのではなく、科学的な思考が自然とできるようになってもらいたい。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 自己紹介と方針, 予備知識のチェック, 発表の分担者を決める。
- 第2週 生業形態と環境
- 第3週 生業携帯と環境
- 第4週 人間の経済：人類学的経済研究
- 第5週 人間の経済：交換のシステム
- 第6週 市場交換と贈与
- 第7週 市場交換と贈与
- 第8週 宗教・非論理のロジック1
- 第9週 宗教・非論理のロジック2
- 第10週 宗教・非論理のロジック3
- 第11週 法と統制1
- 第12週 法と統制2
- 第13週 法と統制3
- 第14週 法と統制4
- 第15週 総括

4. テキスト

Nanda, Cultural Anthropology, wadsworth (非専攻者のための概論書)。研究室所蔵
 Roger.Keesing, Introduction of Cultural Anthropology (専攻者のための概論書)。図書館所蔵
 その他, 言語人類学と構造人類学関係の図書については最初の時間に目録を提供する。

参考文献

一般的な研究書(課題により適宜紹介する)

5. 準備学習

事前に課題を適宜紹介する。

6. 成績評価の方法(明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。)

発表内容と授業への貢献度 50点
 レポート(発表など) 50点
 合計 100点

7. 履修の条件:

特になし。

8. その他

科目名	経済政策特論			担当教員：宮平 栄治	
科目名(英語)	Economic Policy			メールアドレス：s.miyahira@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講学期	登録予定 人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	4	315	火・木 14：45～16：15
<p>1. 授業の概要</p> <p>経済政策は、他の経済学分野と違い、極めて現実的課題を扱う。例えば、自然科学においては実験等を通じてデータを収集し、再生可能な情報を、他の社会科学においてはアンケート等を通じてデータを収集し、再生の可能性が高い情報を得、理論構築と展開を行うが、経済政策では実験を行い、失敗をする事はできない。この点を踏まえ、この講義では、経済政策の決定に関する諸課題を扱い、日本および世界経済の診断を行なう。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>経済政策を理解するためには、経済哲学、経済政策理論、およびビジョンが必要となる。また、実行するためには、政府、法令、予算および人員が必要となる。この講義では、経済政策が、発案され実行するまでにこれらの事柄がどのように関連するかを学ぶことで、将来の政策立案者としての基礎を確立する。</p> <p>3. 講義予定</p> <p>第1週 経済政策と他の社会科学との相違点 第2週 経済政策の発動要因および政策主体 第3週 経済政策過程と種類 第4週 政策手段と政策変数 第5週 法律と行政指導 第6週 財政政策 第7週 金融政策 第8週 マクロ経済と経済構造 第9週 マクロ経済政策 第10週 成長政策①ーハロッド・ドーマー理論 第11週 成長政策②ー新古典派成長理論 第12週 成長政策③ーデュアリズムの経済発展理論(マルサス、Hinggins、Lewis など) 第13週 ミクロ経済と経済 第14週 ミクロ経済政策 第15週 日本の産業政策</p> <p>4. テキスト</p> <p>適宜、資料を配布する予定である。</p> <p>参考書</p> <p>(1) 後藤昭八郎著『経済政策原理の研究』(世界書院 2000年) (2) 鳥居泰彦著『経済発展理論』(東洋経済新報社 1979年) (3) 小宮隆太郎・奥野正寛・鈴木興太郎編『日本の産業政策』(東大出版会 1984年) (4) 伊藤元重・清野一治・奥野正寛・鈴木興太郎著『産業政策の経済分析』(東大出版会 1988年)</p> <p>5. 準備学習</p> <p>上記の参考書の他、『日本経済新聞』等を読み、政策が立案される過程等を調査するように。</p> <p>6. 評価方法</p> <p>① 講義中における口頭発表およびディスカッション ② 適宜行なうレポート ③ 適宜行なう小テスト 以上の合計点で評価する。</p> <p>7. 履修条件</p> <p>口頭発表の際は、レジュメを用意する。</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	社会心理学特論 I			担当教員：木村 堅一	
科目名(英語)	Social Psychology I			メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	10	310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目
<p>1. 授業の概要</p> <p>大学院で扱う研究対象は「言語」、「経営」、「情報」、「環境」、「政策」、「健康」など幅があるが、実は共通点も存在する。どの領域の研究者であっても、必ずその研究対象に関わる現象を測定し、測定されたデータを加工、分類、比較、解析して、学術貢献あるいは社会貢献するための「新たな知・技術」を生産することを目的としている。本講座では、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。また、社会心理学の研究法を学ぶことによって、受講生自らの研究デザインをお互いにブラッシュアップしあうことを目的とする。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>科学全般、特に社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。 自らの修士論文における研究計画の立案において、得られた知識を活用できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 コース紹介 第2週 科学とは何か(第1章 その1) 認識の方法としての科学 第3週 科学とは何か(第1章 その2) 科学的な研究方法、行動と経験の研究とは 第4週 科学についての方法(第2章 その1) 観察、相関、実験 第5週 科学についての方法(第2章 その2) 論理と推論、評価、コミュニケーション 第6週 仮説を発展させる(第3章 その1) 論理的に仮説をつくる 第7週 仮説を発展させる(第3章 その2) アイディアを得る 第8週 数的表現による行動の記述(第4章 その1) 測定と統計 第9週 数的表現による行動の記述(第4章 その2) 記述統計 第10週 推測統計(第5章 その1) 確率と分布 第11週 推測統計(第5章 その2) 仮説検証、t検定 第12週 仮説を検討する(第6章 その1) 変動の種類 第13週 仮説を検討する(第6章 その2) 統計的仮説検証と内的妥当性 第14週 統制(第7章 その1) 無作為化、実験計画での統制 第15週 統制(第7章 その2) 実験の論理での統制、前期のまとめ</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>W. J. レイ(著) 岡田 圭二(訳) 2013 改訂エンサイクロペディア心理学研究方法論 北大路書房 高根正昭 1979 創造の方法学(講談社現代新書 553) 講談社 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編) 2001 心理学研究法入門 東京大学出版会</p> <p>5. 準備学習</p> <p>指定した範囲について、テキスト・参考文献を通読し、重要な用語については定義を書きだしておくこと。 予め指定された担当範囲についてレジメを作成すること。 学習内容について、自らの修士論文に関連した具体例を用意しておくこと。</p> <p>6. 成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義への取り組み(50点): 講義での発表と資料作成、質疑応答、積極的な参加 ・課題レポートの提出(50点): 1つの章を要約し、授業の中での議論を踏まえ、研究課題を設定、報告。 ・合計(100点) <p>7. 履修の条件</p> <p>8. その他</p> <p>特になし。</p>					

科目名	社会心理学特論Ⅱ			担当教員：木村 堅一	
科目名(英語)	Social Psychology II			メールアドレス：k.kimura@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	10	310	月曜日 3時限目 火曜日 3時限目
<p>1. 講義内容</p> <p>大学院で扱う研究対象は「言語」、「経営」、「情報」、「環境」、「政策」「健康」など幅があるが、実は共通点も存在する。どの領域の研究者であっても、必ずその研究対象に関わる現象を測定し、測定されたデータを加工、分類、比較、解析して、学術貢献あるいは社会貢献するための「新たな知・技術」を生産することを目的としている。本講座では、「社会心理学特論Ⅰ」に引き続き、大学院での修士論文の執筆に役立つ社会心理学の「研究法」に焦点を当てる。また、受講生自らの研究デザインをお互いにブラッシュアップしあうことを目的とする。</p> <p>2. 到達目標</p> <p>科学全般、特に社会心理学的な研究を行う上で必要な方法論に関する基本的な知識と技能を理解できる。 自らの修士論文における研究計画の立案において、得られた知識を活用できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第1週 コース紹介 第2週 実験の論理を応用する(第8章 その1) 被験者間実験計画 第3週 実験の論理を応用する(第8章 その2) 要因計画 第4週 実験の論理を適用していく(第9章 その1) 被験者内実験計画 第5週 実験の論理を適用していく(第9章 その2) 混合実験計画 第6週 実験の生態学(第10章 その1) 生態学、実験者要因 第7週 実験の生態学(第10章 その2) 被験者要因、バイアス 第8週 質問紙、調査研究、標本抽出(第13章 その1) 質問構成と形式 第9週 質問紙、調査研究、標本抽出(第13章 その2) 標本の抽出と大きさ 第10週 倫理(第14章 その1) 倫理的配慮、実験上の配慮 第11週 倫理(第14章 その2) 各国のガイドライン 第12週 結果の共有(第15章 その1) 論文の準備 第13週 結果の共有(第15章 その2) 論文を出版する 第14週 方法を超えて(第16章 その1) 研究の次元、科学の限界 第15週 方法を超えて(第16章 その2) 科学の価値</p> <p>4. テキスト・参考文献</p> <p>W. J. レイ(著) 岡田 圭二(訳) 2013 改訂エンサイクロペディア心理学研究方法論 北大路書房 高根正昭 1979 創造の方法学(講談社現代新書 553) 講談社 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編) 2001 心理学研究法入門 東京大学出版会</p> <p>5. 準備学習</p> <p>指定した範囲について、テキスト・参考文献を通読し、重要な用語については定義を書きだしておくこと。 予め指定された担当範囲についてレジメを作成すること。 学習内容について、自らの修士論文に関連した具体例を用意しておくこと。</p> <p>6. 成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義への取り組み(50点)：講義での発表と資料作成、質疑応答、積極的な参加 ・課題レポートの提出(50点)：1つの章を要約し、授業の中での議論を踏まえ、研究課題を設定、報告。 ・合計(100点) <p>7. 履修の条件</p> <p>特になし</p> <p>8. その他</p> <p>特になし</p>					

科目名	環境生態学特論 I			担当教員：田代 豊	
科目名(英語)	Advanced Environmental Science and Ecology I			メールアドレス：tashiro@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	10	207	時間割確定後研究室に掲示

1. 授業の概要

人間と自然との関わりの機会が重視されつつある現代社会において、自然環境の保全のために景観の価値の適切な評価手法の確立が求められている。本講義では、主として工学的な水理学の観点から水の表情のメカニズムを扱う景観水理学を取り上げ、環境と人間との関わりの一側面として、演習的要素を取り入れながら講義する。

2. 到達目標

落水・流水の水理学的解析と、その応用による景観の操作や予測について理解する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 科目の概要の説明と履修要件の確認
- 第 2 週 水理学と落水表情について
- 第 3 週 落水の工学的・理学的アプローチ
- 第 4 週 落水の水理学的メカニズム
- 第 5 週 流水の水理学的メカニズム
- 第 6 週 落水表情の構造的骨格
- 第 7 週 落水表情のフラクタル幾何学と次元
- 第 8 週 落水の実験研究
- 第 9 週 流水の実験研究
- 第 10 週 テスト
- 第 11 週 ハイドロスケープデザインと操作要素
- 第 12 週 ハイドロスケープの予測
- 第 13 週 ハイドロスケープの創造①
- 第 14 週 ハイドロスケープの創造②
- 第 15 週 総合討論

4. テキスト

『景観水理学序論』逢澤正行、鹿島出版会発行（4200 円＋税）

参考文献

『日本の空間認識と景観構成』宇杉和夫 古今書院（11200 円＋税）

5. 準備学習

テキストを精読し、指示に従ったレジメを作成しておくこと。

6. 成績評価の方法

授業への取り組み	30点
テスト	70点
合計	100点

7. 履修の条件

数学・化学・物理学・地学・生物学等自然科学の基本的な素養が受講のために必須である。

8. その他

なし

科目名	環境生態学特論II			担当教員：田代 豊	
科目名(英語)	Advanced Environmental Science and Ecology II			メールアドレス：tashiro@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	後期	10	207	時間割確定後研究室に掲示

1. 授業の概要

砂浜は、人間社会に様々な恩恵を与える反面、人間活動の影響を直接受けることが多い環境である。本特論では、砂浜の物質とエネルギーの動態について理化学的な見地から解説する。

2. 到達目標

砂浜の環境と生態系における物質とエネルギーの動態を理解する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 科目の概要の説明と履修要件の確認
- 第 2 週 砂浜の物理環境①砂の特性
- 第 3 週 砂浜の物理環境②波の特性
- 第 4 週 砂浜の物理環境③漂砂と砂浜の形状
- 第 5 週 砂浜の物理環境④エネルギーと露出度
- 第 6 週 砂浜海岸のエネルギーと栄養塩循環①餌料源
- 第 7 週 砂浜海岸のエネルギーと栄養塩循環②食物連鎖
- 第 8 週 砂浜海岸のエネルギーと栄養塩循環③エネルギーフロー
- 第 9 週 砂浜海岸のエネルギーと栄養塩循環④栄養塩循環
- 第 10 週 テスト
- 第 11 週 砂丘／砂浜の物質交換①風と砂丘の形成
- 第 12 週 砂丘／砂浜の物質交換②砂丘の形態
- 第 13 週 砂丘／砂浜の物質交換③環境勾配
- 第 14 週 砂丘／砂浜の物質交換④物質交換
- 第 15 週 総合討論

4. テキスト

『砂浜海岸の生態学』須田有輔・早川康博訳、東海大学出版会発行（5400円＋税）

参考文献

『河口・沿岸域の生態学とエコテクノロジー』栗原康編著、東海大学出版会発行（税込み 6300円）

5. 準備学習

テキストを精読し、指示に従ったレジメを作成しておくこと。

6. 成績評価の方法

授業への取り組み	30点
テスト	70点
合計	100点

7. 履修の条件

過去に環境科学・生態学に関する講義を履修したことがあること。また、数学・化学・物理学・地学・生物学等自然科学の基本的な素養は必須である。

8. その他

なし

目名	人間健康科学特論			担当教員：小川寿美子	
科目名(英語)	Advanced Course of Human Health Sciences			メールアドレス：sumiko@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1・2	前期	4	608	研究室前に掲示

1. 授業の概要

人々の健康を守る人間社会の営みを、医療者や専門家に任せておけばよいという時代はもう終わった。自分のからだ
と心の主人公はやはり自分であり、よき医療者を得たり、医療者との良い関係を保ったり、保健医療を浴したり、環境
や社会をより健康的に変えていったりするのも、保健医療の利用者・消費者である一般の人々の責任と行動に負うところ
が益々大きくなってきている。

本講義では、大学院の共通科目として、単に知識を提供したり解説を加えたりするだけでなく、各章で取り上げている
問題を受講者が自分の健康問題として考え行動してもらうことを重視する。更に、講義の一部は英語で「健康科学」
を考える機会を設けることにより、他言語での学びを通じ、大学院の教養レベルの基礎的知識を多角的に習得できるよ
うにする。

It is available to provide the lecture in English, if it is strongly requested.

2. 到達目標

本特論を通じて、受講生は学びの過程をそれぞれポートフォーリオ（本科目を学ぶ過程で得た知識、スキル、成果の
達成過程を示すファイル）にまとめる作業を通じて、健康科学に関する体系的な知識の構築手法を学ぶことができる。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 健康とは何か
- 第 2 週 現代社会と心の病
- 第 3 週 ストレスと対処
- 第 4 週 食生活と健康
- 第 5 週 フィットネスとウェイトコントロール
- 第 6 週 タバコとアルコールと薬物
- 第 7 週 愛し合う関係
- 第 8 週 成熟とエイジング
- 第 9 週 死と死にゆくこと
- 第 10 週 慢性疾患と事故とその予防
- 第 11 週 感染症の再興とその予防
- 第 12 週 医療における行動と選択
- 第 13 週 ヘルスケアシステムとマンパワー
- 第 14 週 環境と健康
- 第 15 週 試験

4. テキスト

「生き方としての健康科学」山崎喜比古・朝倉隆司 編, 有信堂, 2011 年 (第 5 版) 2,800 円

参考文献

- 「Life and Health Care」Yoko Watanabe, Sanshusha, 2002 年
- 「CLIL 英語で学ぶ健康科学- CLIL Health Sciences」笹島茂、他, 三修社, 2013 年
- 「人々を健康にするための戦略」蝦名玲子, ライフ出版社, 2013 年

5. 準備学習

各週に出される課題、宿題をすること

6. 成績評価の方法 (明記すること。学生が一見して理解できる評価方法にすること。)

ポートフォーリオ	50 点
試験	50 点
合計	100 点

7. 履修の条件:

ある程度の英語能力 (英検準 2 級程度以上) を持ち、教養としての健康科学を学習する意欲のあるもの。

8. その他

特になし